

ラグビー 試合の流れ つかめず黒星 対東洋大戦

【試合結果】
●7-80 対東洋大
6月13日、本学けやきグラウンドで、第10回関東大学春季大会が開催された。本学はCグループで東洋大学と対戦した。

攻守共に課題

など果敢に攻めるが、相手の守備は崩せない。トライを重ねられた本学は点差を広げられていく。しかし、後半41分、CTB 糊谷憲信(物質生命3)がディフェンスを突破し、ゴールライン近くまで走り抜ける好プレーを展開。本学は相手のタックルを受けながらも粘り強くインゴールに近づいていき、トライに成功する。続くWTB 鈴木康太(経済経営4)のゴールを合わせ、7点を決めた。勢いに乗りた本学であったが、強固な相手ディフェンスを突破できない。終了間近にもトライを決められ、ここでノーサイド。終始攻めきれず勢いに押された本学は、7-80で黒星となった。(田尻那奈海)



池田監督:今日の試合では、80分間を通して相手の激しいディフェンスとアタックに圧倒されました。本学のやりたいプレーにつながらず、なかなか思うようにいきませんでした。平松:チーム全体として、1on1の部分で相手を圧倒するという思いを持って試合に臨みました。しかし、相手の強いキャリーに終始後手に回ってしまい、自分たちの望む試合展開がで

監督・副将 インタビュー

本学で行われた対東洋大戦。敵陣深くまで攻め入る場面も見られたが、終始厳しい戦いとなった。試合後、監督の池田元さんと副将の平松東悟(経済経営4)が動画でコメントを発表。試合の振り返りと今後の意気込みを述べた。コメントは以下の通り。——今回の試合を振り返って

きませんでした。——今後の試合への意気込み
池田監督:試合の中で発見できた課題を持ち帰り、次の試合に生かしていきたいです。引き続き応援のほど、よろしく願っています。
平松:課題にも拳がりましたが、相手を1on1で圧倒できるようにしたいです。自分たちのリズムで試合を展開したいと思います。(田尻那奈海)

サッカー 一時逆転も青山学院大 に引き分ける

【試合結果】
△3-3 対青山学院大
6月12日、第54回東京都大学サッカーリーグ戦1部第10節が行われた。同リーグでいまだに白星のない本学は、今季初勝利を目標に青山学院大戦へ臨む。

合わせにいくと、相手のファウルでPKを獲得。冷静に決め、2-2の同点に追い付いた。本学はボールをキープし続け、相手に攻撃のチャンスを与えない。そして後半22分、加島が大峽のコーナーキックに合わせて相手ゴールのネットを揺らす。3-2と逆転に成功した。その後も本学は、守備の手を緩めることなく相手の猛攻を退ける。しかし、試合終了間際にディフェンスが崩れ失点。同点に追い付かれ、3-3の引き分けとなった。



円陣を組む本学選手たち

アメフト 課題 が残る 初陣

【試合結果】
●7-23 対神奈川大
5月30日、アミノバイタルフィールドにて春季オープン戦が行われた。本学は2年連続で関東学生リーグ戦2部Aブロックを制しており、今期の1部昇格を目指している。

開始直後は互いに攻めきれず拮抗した展開となったが、前半20分に相手に先制点を許す。さらに、センターラインからドリブルで攻め上がってきた相手選手を倒してしまい、PKで0-2と点差を広げられた。流れを変えた本学は、前半33分敵陣ゴール前でボールを奪い絶好のチャンスを得る。シュートを相手GKに止められるも、このプレーを皮切りに本学の反撃が始まった。前半36分、敵陣左奥でMF芥川和志(経済経営3)がゴール前に絶妙なパスを供給する。アシストを受けたDF加島大貴(政治4)がゴールへ押し込み1点を返した。その後得点はなかったが、本学のペースのまま前半を1-2で折り返す。

火とつながり成長を 体育会団体紹介

馬術部

近頃「ウマ」に注目が集まっているのをご存じだろうか。本学にも馬術部が存在し、部員たちは現在3頭の馬と生活を共にしている。活動内容を吉田夕真さん(日本語3)に語ってもらった。



乗馬中の部員

で行っている。部員と一緒に過ごす時間が長いと、互いを家族のように感じているという。今後は、地域に貢献し馬術の知名度向上と活性化に力を入れていく。その一歩として今年3月には、公益財団法人武蔵野生涯学習振興事業団と協力し、小学生向けの乗馬体験を行った。例年行う桜祭や櫛祭での乗馬体験に加え、本年度も実施する予定だ。馬と触れ合うことが、人と人とのつながりを生んでいる。(秋田彩夏)

ゴルフ部

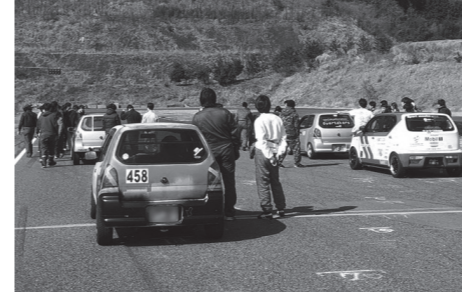
近年、若い選手の活躍が目立つゴルフ。本学ゴルフ部の部員たちも日々練習に励んでいる。そこで、主将の布施龍さん(経済経営4)に同部の活動について聞いた。

権子選会、朝日杯に向けて鍛錬を重ねている。同部の特徴は、団体練習に多くの時間を割いていることだ。大学からゴルフを始めた人が大半だが、互いに教え合い、技術を高めることができる。また、ゴルフの上達には技術練習だけではなくメンタルの管理も欠かせない。うまくいかない時に動揺せず、気持ちを切り替えられるかどうかで試合結果も大きく変わる。布施さんは「ゴルフ部の活動を通して、他人との協調性や社会でのマナーを身に付けることができる」と語った。(篠田悠斗)

自動車部

大学入学後、運転免許を取得する学生も多い。自動車は交通手段の一つであると同時に、趣味や競技としての側面も持つ。本学においても大学体育館の裏にあるガレージで、自動車の整備に汗を流す学生たちがいる。今回は彼らの所属する自動車部取材した。

にレース用の自動車には、耐久性向上や軽量化のために大掛かりな整備が必要だ。複雑で大変な作業だが、成功した時は達成感がある。また、部でドライブをすると、行く先で他大学の自動車部の学生に出会うことが多い。他大学の走行会に誘われることも多い、交流の輪が広がる。榎谷さんは、車好きの仲間との会話や整備が楽しいと語る。車好きの学生は彼らのガレージを訪れてはどうかだろうか。(三瓶純一)



レース参加の様子(左手前)

野球 八回に必死の猛追も届かず 惜敗

【試合結果】
●2-3 対順天堂大
6月12日、大田スタジアムにて東京都大学野球春季リーグ戦(3部)が行われた。4部への入れ替え戦出場を避けるための重要な一戦。相手は前回6-3で勝利した順天堂大だ。

得点には至らない。その裏、2番手の飯塚光太(政治1)が二死一、三塁のピンチを背負うも、力のあるストレートで三振を奪い無失点に抑えた。六回表に連打で一死満塁と一打逆転の場面をつくるも無得点。六回、七回に三者凡退で抑えると、八回表にこの回先頭の4番上原和浩(システム3)のヒットをきっかけとし、一死一、三塁の好機を迎える。このチャンスに

7番仲田亮太(総合経営2)が、甘く入った直球を逃さず左中間へ二塁打を打ち、2点を返す。その後もチャンスは続くが相手投手が粘り、この回は2点止まりとなる。九回表、1点ビハインドとなり何とか追い付きたい本学であったが三者凡退。2-3で試合終了となった。試合後、副主将の小林駿也(経済経営3)は「勝負どころの集中力が相手の方が上だった。投手はよく抑えていたが、守備のミスが失点につながった。入れ替え戦では自分たちの力を発揮し必ず残留する」と語った。(齊藤睦典)

過度なトレーニングに 注意

部活動やサークル活動などで、運動を長期間継続して行う学生は多い。しかし、生理的な疲労が十分に回復しない状態でトレーニングを続けると、オーバートレーニング症候群に陥る危険性があることを知っているだろうか。オーバートレーニング症候群とは、運動の質と量が過剰なために、疲労が十分に回復しないまま蓄積して起こる慢性

疲労状態を指す。軽症の場合は、競技成績の低下や強度の高いトレーニングをこなせない程度の症状にとどまる。しかし、中等症になると、筋肉痛や関節痛、睡眠障害、鬱状態など日常生活にも支障を来す。重症では、ほとんどトレーニングができない状態に陥る。この病状は練習熱心で責任感の強い人ほど陥りやすいと言われている。また、新入部員も慣れないトレーニングや環境の変化によるストレスで発症しやすいため、注意が必要だ。オーバートレーニング症候群の回復には休息以外の方法はなく、完治まで数カ月から数年かかることもある。疲労をため込まないという予防意識はもちろん、日頃から体調をチェックし、異常を見つけたら診断を受けることも重要となる。校医の河合祥雄先生は、予防として行うべきことに「運動・休養・栄養のバランスを保つ」「体調をチェックする習慣をつける」「競技成績低下の原因を安易に練習不足だと考えない」の三つを挙げた。トレーニングは月曜日と木曜日など週2回、2日間の休養を挟み行うと良い。練習はうそをつかないという覚悟、やりすぎは逆効果であることを覚えておきたい。(外山隼也)

成蹊大学新聞会 2020年度決算報告書			
収入合計	¥591,893	支出合計	¥591,893
前年度繰越金	¥541,889	印刷費	¥0
学生会援助金	¥0	旅費交通費	¥5,600
成蹊会援助金	¥50,000	通信運搬費	¥75,068
広告収入	¥0	消耗品費	¥8,267
利息	¥4	広告宣伝費	¥12,870
		諸費	¥330
		次年度繰越金	¥489,758

SATORI GROUP

Technology Solution Global

手を伸ばすと、指先に“未来”が触れた……。挑戦する楽しさを、やり遂げる喜びを分かち合いたい。

FORESIGHT

もっと先へ、もっと未来へ

会社概要
・設立 1947年
・資本金 26億3800万円
・売上高(単体) 489億2500万円
(連結) 1071億3000万円
・株式上市 2003年 東証一部
・事業内容 電子部品・電子機器の販売及び、これらに付帯する事業
・子会社 佐鳥パインックス、スター・エレクトロニクス、佐鳥SPテクノロジー、台湾佐鳥、香港佐鳥、佐鳥貿易(上海)、佐鳥貿易(深圳)、韓国佐鳥、シンガポール佐鳥、タイ佐鳥、佐鳥エーテクノロジー、佐鳥ドイツ

代表取締役社長執行役員 佐鳥浩之(経済 1989年卒)

http://www.satori.co.jp/